

厚生労働記者会幹事社様

KHJ全国ひきこもり家族会連合会レクのお願い 令和4年5月12日（木）13：30～

当事者が求める、ひきこもり支援者要請に関する調査報告、 及び、当家族会が提案する新たな「ひきこもり」定義について

報告：調査実施者の境泉洋・当家族会副理事長（宮崎大学教育学部教授）、池上正樹・同広報担当理事、上田理香・同事務局長、深谷守貞・同事務局他（伊藤正俊・同理事長はオンライン参加）

◎主なトピックス

●家族調査 332 人

- ・ 本人が家庭内で貢献している家事→（多い順に）風呂掃除、食事作り、食器洗い他
- ・ 支援、医療機関の利用状況→継続的に利用している 29・8%
- ・ 家族会に参加してどのような変化があったか？→気持ちが楽になった・子への対応、考え方が変わった、本人との関係が良くなった、元気をもらえる・安心できる
- ・ 家族会以外に身近に相談できる場所があるか？→ない 46・1%
- ・ 本人が医療を必要としていても、受診が難しい状況にある→41.6%

●本人調査 131 人

- ・ ふだんどんな所に出かけているのか？→（多い順に）スーパー、病院、仕事（職場）、コンビニ、買い物、図書館、商業施設（ショッピングセンター）他
- ・ これから生活していく上で何らかの支援を望んでいるか？→はい 62・6%
- ・ 今後充実していく必要があると思われる支援は？→（複数回答）居場所が複数あること 70・2%、相談支援 62・6%、ピアサポート 59・5%、経済的支援 58・0%他

●全体

- ・ 本人調査で 40 歳以上→過去最多 44・9%、50 歳以上 14・2%（8050 世帯増加）
- ・ また、当家族会は「ひきこもりの理解促進と支援力向上のための研修会」報告書において、有識者らとの議論の末、新たな「ひきこもり」定義を提案した。

問い合わせ 同会事務局 03-5944-5250